

教員役職者・新任教員紹介

新規選出教員役職者

平成24年1月1日付

歯学部附属歯科衛生士専門学校教務主任

長田 真美

新任教員

平成24年1月1日付



准教授

鈴木 英樹 (すずき ひでき)

PROFILE

弘前大学医療技術短期大学部理学療法学科、佛光大学社会学部社会福祉学科卒業。北星学園大学大学院文学研究科修士課程修了。北海道大学医学部附属病院理学療法部文部技官、札幌市保健福祉局技術職員、北のくらしと地域ケア研究所代表等を経て、本学就任。社会福祉学修士。

平成24年1月1日付

薬学部 助教(生命物理学)

岡田 知晃

歯学部 助教(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療))

日高 竜宏

Message

定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授
関川 彬

1979年11月に本学薬学部の助教授に赴任してから32年半が過ぎました。本学の教員の定年が65歳であるので、これまでの人生の半分を本学で過ごしたことになります。薬学部の三期生が最高学年で、彼らも今五十代半ばで、あと数年で定年を迎えることになると思えば不思議な気持ちになります。

当時は大学の前に駅はなく、ほとんどの学生は当別駅から数台のスクールバスで大学に通っていました。新設の大学であったため、知名度、偏差値ともに低く、事務職員と教員が組んで、高校の進路指導の教員に大学の宣伝に向いたのも懐かしい思い出です。国家試験合格のため、勉強に真剣に取り組む学生の姿に感動したのも新しい体験でした。

教授になってからは、講義や実習の他に病院実習、大学院の臨地実習、教務、国試対策、就職などの担当も行いました。特に病院実習や臨地実習は全国に先駆けて実施したため、4年制の4週間実習は他地域の薬学部の実習の参考になったとされています。現場の薬剤師が親身に学生の指導を行っていたとき、「薬学部の学生は地域の薬剤師が育てる」といった北海道の土壌は6年制の長期実習に受け継がれています。

学生との出会い、教員、職員との共同教育、卒業や退職の別れ、尊敬する先生達との永遠の別れがありました。そして卒業生の子弟の教育にも携わることができました。多くの感謝をもって定年を迎えることができました。ありがとうございます。



薬学部 教授
高橋 大

1974年4月、白糠郡音別町に本学の教養部が開設され、化学教室(主宰伊藤昌明初代教養部長)の講師として赴任して以来、38年勤めさせていただき定年を迎えることとなりました。長きにわたり大過なく過ごすことができましたことは、多くの教職員の皆様からのご指導ご鞭撻のおかげと、心より感謝申し上げます。

音別の頃は、私と同僚の先生方も若く共によく語り合い(飲み会)をしました。また、学生とはクラブ活動(卓球部、スキー部)などで、共に汗を流したことを懐かしく思い出されます。恩師の故伊藤教授は、津軽ヒバの精油成分の一種であるツヨブセンの研究をされており、このツヨブセンとの出会いが、私のその後の主たる研究テーマとなりました。

歯学部の開設の後、教養部が当別に移転し、さらに、専門学校および新学部の開設など、本学が大きくなるにつれ、公私ともいっそう多忙になり、時経つ速度が増した感がありました。また、教養部が、基礎教育部を経て改組分属となり、薬学部人間基礎科学教室所属となってからは、薬学部6年制など学部や学生の動向など大きく変化しつづけています。この変化の速度に徐々に遅れている自分がおりましたが、柱を見失ってはならないと自戒しておりました。

最後になりましたが、いま一度、教職員の皆様、同窓生および学生の皆様のおかげでこの時を迎えることができました。深く御礼申し上げますとともに本学のますますの御発展をお祈り申し上げます。



歯学部 教授
和泉 博之

2003年2月に本学に赴任して以来、充実した期間を過ごさせていただき、皆様のご支援によるものと心より感謝申し上げます。

東北大学薬学部大学院から始まった研究生活も40数年の年月が流れ、光陰矢の如しです。振り返ってみると、好きなことを一所懸命やってきた生活でした。若い時に、趣味は「研究」と「テニス」といったのが、今となっては真実のような気がします。朝早くから夜遅くまで、頭の中は「良い仕事をしたい」という思いでいっぱいでした。趣味だから、苦しい研究も喜びになり、最後まで自分の発想に基づいた研究をやることのできたのではないかと思います。そのまとめとして本学歯学雑誌(30巻2号)に「生理学からみたヒト」というタイトルで総説を書くことができました。古来、

研究者の仕事はほとんどが趣味の世界なのではないかと思われれます。学問とはそれを究める事で発展してきたのではないのでしょうか。趣味としては、研究は最高のもので決して飽きることも退屈することもなく、無限の努力をする甲斐があるものです。一方では趣味とはいえ、安易に流れず、その結果をよく見据えていなければ、全くの物笑いでおわる可能性もあることも心しておかなければならない厳しさもあります。

“大人”になるとは他人に割く時間が多くなることといいますが、退職後は少し“大人”になって後輩、同輩、家族のために時間を割いていきたいと思っています。最後になりましたが、今後の本学の益々の発展を祈念致します。